

## 自然共生の未来を探究する連続ワークショップ

佐渡島は豊かな自然に恵まれています。森と海の間広がる多彩なランドスケープには、さまざまな資源が溢れています。しかしながら、自然の恵みを受けて発展してきた佐渡島の第一次産業は、現在、自然環境や社会の変化に伴うさまざまな課題と直面しています。どのようにしたら佐渡島のポテンシャルを最大限に生かし、地域の発展につなげていくことができるのでしょうか。業種の垣根を超えて対話し、新たな視点で課題を捉えることで、自然共生という視点から、島の未来の可能性を描いていきたい。その第一歩として、循環・つながり・創造を思考する連続ワークショップをスタートしました！ワークショップには3つのねらいがあり、その成果をもとに、佐渡島で自然共生型社会の可能性を模索する地域ラボを構想したいと考えています。

ワークショップ  
3つのねらい

1 佐渡島の  
強みと課題  
を整理する

2 業種をつなぎ  
新たな産業の  
未来を描く

3 未来を共創する  
コミュニティを  
つくる

その先の目標  
自然共生の  
ラボ構想

## 第1回ワークショップの報告

6月30日（木）18:00～20:00 あいばーと佐渡  
参加者：会場28名、オンライン20名

### オープニング

佐渡島で自然共生をミッションとした地域ラボを作りたい！という思いを胸に、新潟大学、NTTデータ、佐渡市が連携して、新たな試みをスタートしました。今回のワークショップは、その第一歩。まずは企画者それぞれの思いを参加者と共有しました。

自然共生の島として発展するために、多彩な試行錯誤を展開する共創のしくみを、業種の垣根を超えて作っていきたくと考えています。

SDGs未来都市に選定された佐渡市。いろいろなアイデアを建設的に積み重ねて、前に進むためのプロジェクトを進めていきたいです。

佐渡島は世界NO1のエコアイランドを目指せる可能性に溢れた島。まずは現状を整理してミッシングリンクを探そう！

### インスピレーショントーク

#### ローカルSDGsの超絶まちづくり

～佐渡オンリーワンの地域循環共生圏をつくる～

講師 | 谷中修吾さん

BBT大学経営学部グローバル経営学科・学科  
地方創生イノベーションプラットフォーム「INSPIRE」代表理事

環境省「地域循環共生圏プラットフォームの在り方検討委員会」の委員でもある谷中さんから、ローカルSDGsの潮流を踏まえ、人と自然が共存共生するまちづくりについてお話を伺いました。原体験を生かす、ワクワクすることに挑戦する、既存の取り組みを再定義しオンリーワンの価値創造につなげる、共創する仲間を見つけるなど、地域づくりのポイントを学びました。

### ワーク

異業種の参加者でグループを作り、森（林業）、里（農業）、海（水産業）、暮らしという4つの観点から、佐渡の強みと課題を整理しました。各グループで整理した意見をまとめたのが右の図です。出現頻度が高いキーワードほど大きな文字で表示されています。

自然資源が豊富であることは、多くの人が認識していますが、課題には「人」にかかわる言葉（例えば、担い手、後継、高齢など）が共通して多く見られます。森、里、海の現状を知ることから始め、越境して展開しうる取り組みを考えていきます。



「最強の縄文型  
ビジネス」の著者



	強み・ポテンシャル	課題
里 農業	農業、トキ、棚田、米、野菜、素朴	不足、担い手、後継、人手、高齢化
森 林業	木、竹、自然、資源、山、木材、佐渡、高齢、成長、種類、豊富	木、管理、コスト、人、後継、整備、高齢化
海 水産	海、魚、きれいな、資源、豊富、水産、寿司、釣り	ゴミ、海岸、後継、高齢、アクセス、活用、方法、不足、海
暮らし 社会	世界文化、人、移住、祭、遺産、山、島、伝統、海、人、店、タビ	人、交通、減少、不足、人、人口、高齢化、佐渡大学、活用

## 第2回ワークショップの報告

7月1日（金）18:00～20:00 あいばーと佐渡  
参加者：会場27名，オンライン13名

### インスピレーショントーク

#### 佐渡市の農林水産業の政策最前線 話題提供者 | 佐渡市関連部署担当者

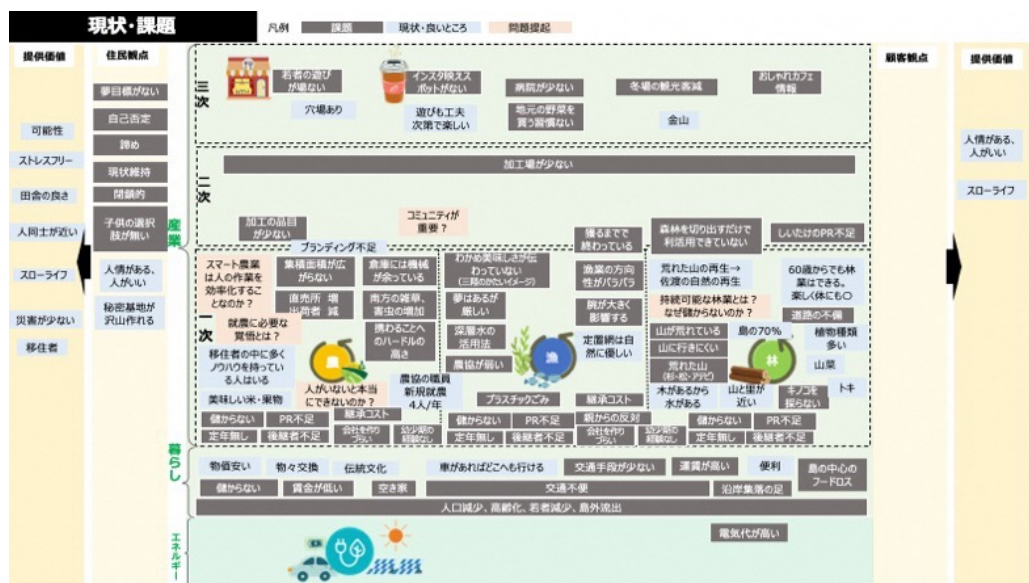
農業政策課・課長 中川克典さん  
農林水産振興課・水産振興係・係長 伊藤誠さん  
農林水産振興課・林業振興係・係長 祝久さん

自然資源のサステナブルな利活用は、佐渡市の産業振興の重要なミッションでもあります。農業、林業、水産業、それぞれの分野でどのような政策が展開されているのか、各部署の担当職員の方から話題提供いただきました。

### ワーク

第1回のワークで共有した強みや課題を掘り下げるために、農業、水産業、森林資源、暮らし、次世代への継承というテーマに分かれ、それぞれ「人」「モノ」「金」という観点からさらに現状の整理を行いました。農林水産業の区分を横軸に、産業の高次化を縦軸にとって意見を整理してみると、第二次産業に関連する意見が特に少ないことがわかります。開拓の余地がある分野とも言えるかもしれません。

各産業において適正規模を考えていくことの重要性が語られました。林業は小規模に展開することで持続可能になるのではないかと、一方で水産資源の有効活用には大規模な冷凍や加工の施設が必要です。また、若者からは、後継者不足の一因として、先輩方が権限を保持し、若手に託すことができていないのではという問題提起もありました。



#### 講師・谷中修吾さんからのひとこと

わたしが着目している縄文文化では、農業、林業、水産業という区分はなく、全てが人びとの暮らしに内包されていたのではないかと思います。貨幣経済に縛られた管理型思考のビジネスを弥生型と呼ぶとしたら、それとは対比的な直感や協調を大切にした縄文型ビジネスを育む土壌が佐渡にはあるように思います。そうした観点からも自然共生の取り組みを考えていけるとよいと思います。



#### スタッフより

新潟大学自然科学研究科・修士1年 曾我京佑  
これまでの2回のワークショップは、単なる意見交換の場ではなく、多様な参加メンバーの知識や経験を対話に取り込み、佐渡の未来への想いがひとつになる実りのある時間になったと思います。魅力をより活かすだけでなく、課題をよりポジティブな方に考え、さまざまなメソッドを活用しながら、解決するような視点が重要になることを実感しました。今後、想いのある人や普段出会わないような人と繋がったり、共に佐渡の未来を描く仲間を増やしていけるような場にしていきたいと思っています。

問い合わせ先 新潟大学佐渡自然共生科学センター コミュニティデザイン室（豊田・北）  
Tel: 0259-22-3885 Email: community-design@cc.niigata-u.ac.jp